



地球大学アドバンス [第27回]

生物多様性シリーズ 2 「生物資源と生物多様性条約～COP10にむけて」

2010.2.15 mon

近年、その紫外線遮断機能や抗菌作用であらためて注目されるシルク(絹)。考えてみればそれも当然で、生物がその体を守る防護システムとして開発してきた数々のノウハウは、今後人類がそこから多くを学ぶべき未使用の「地球のソフトウェア」といえます。その効能は特に「野蚕」といわれる原種で強く、世界の多様な野生シルクの生物資源としての価値に眼が向けられ始めています。

ところが、こうした生物資源の価値が高まる反面で、それらがいま大きな危機にさらされています。生命のソフトウェアの宝庫である熱帯林などが過剰開発で失われるという物理的な損失と、そうした生物資源の知的所有権をめぐる争いで、人類の公共財であるはずの生物資源の利用が制約されるという人為的な損失です。

1992年の地球サミットで締結された「生物多様性条約」は、こうした地球の多様な生物資源の保全とともに、その利用と利益の公正な分配(特に多くの資源国が属する「南」とその知財としての利用を技術的に推進する「北」の国々との)を促進しようというのですが、アメリカの批准拒否などで実効力が発揮しきれない状況です。

今回の「地球大学」では、生物多様性シリーズ第二弾として、シルクの効能をはじめとした生物資源研究の第一人者である東京農大の長島教授に、いまなぜ「生物多様性」なのか? また「生物多様性条約」の人類史的意義をめぐって十全に語っていただきます。

[topics]

- いまなぜ「生物多様性」か?
- 生物多様性条約の真意とは?
- 種の存続と人間の生産活動の持続可能性を求めて
- 生物多様性からみた持続可能な天然資源としての染料・薬用植物と天然繊維(シルクなどの具体例を通して)
- 未来に生きる私達がやらなければいけない事

開催概要

日時: 2010年2月15日(月) 18:30~21:00

ゲスト: 長島 孝行 氏(東京農業大学 教授)

企画・司会: 竹村 真一 氏

Earth Literacy Program 代表

エコツェリア・コンテンツプロデューサー

会場: 新丸ビル10階「エコツェリア」

地図: <http://ecozeria.jp/access.html>

定員: 50名(定員になり次第締め切りとさせていただきます)

参加方法: 事前登録が必要です 事前登録URL <http://www.ecozeria.jp/earth/>

参加費: エコツェリア会員企業に所属の方: 無料

*名刺にて照会いたします。名刺(社員証)を必ずご持参下さい。

エコツェリア会員企業非所属の方: 有料2,000円

*新型インフルエンザの発生状況により、急遽イベントを中止することがございます。状況に応じて、参加申し込みの方には、お知らせいたします。

プログラム 18:00 受付開始/18:30 開演/21:00 閉会